



マチミチstudy現地勉強会in加茂
2023.10.23

ウォークアブルなまちなかづくり

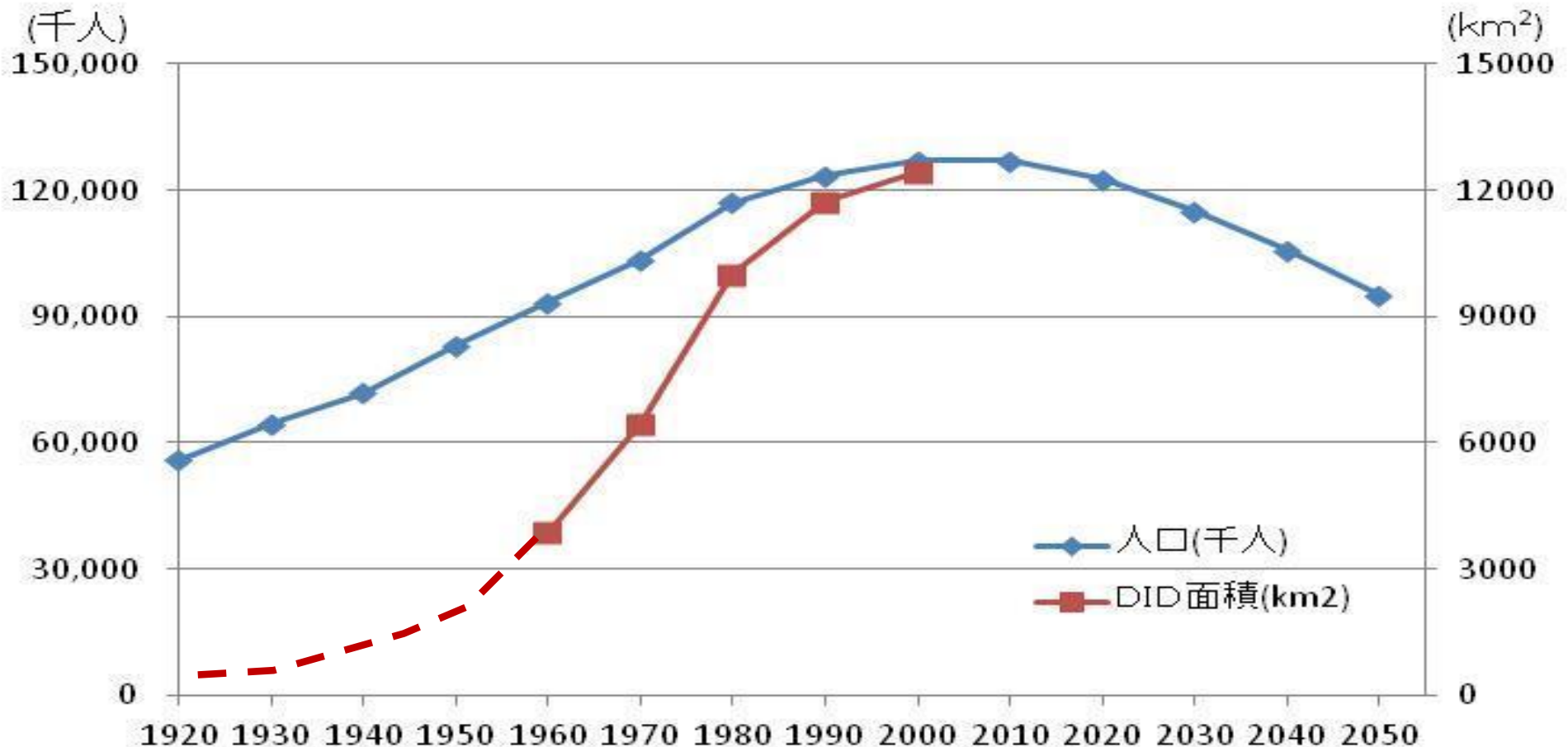
国土交通省 都市局 街路交通施設課
街路安全対策官 崎谷 唯比古

都市経済・社会を巡る背景

- 急速な人口増加・都市拡大圧力への対応
- インフラを造る
- 移動時間の短縮、交通円滑化



- 人口減少高齡化への対応、コンパクト・プラス・ネットワーク
- インフラを賢く使う、再編する
- 居心地がよく歩きたくなる空間をつくる



(出典) 人口:総務省統計局『国勢調査報告』および国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』(平成18年12月推計)による各年10月1日現在人口(中位推計値)、DID面積:総務省統計局「国勢調査報告第1巻人口総数平成17年」による。

○これからの都市政策は人口減少や少子高齢化等による社会経済状況の変化や、気候変動の加速や生物多様性確保への脅威などの地球規模の課題等への対応が必要。併せて、**コロナ禍を契機としたライフスタイルの変化等を踏まえた、Well-beingの向上等も図ることが**求められる。

○このため、官民学の都市にかかわる多様な主体の力を結集し、デジタル技術等も活用した柔軟で有効な取組を今後の都市政策の方向性として進めることが肝要。

環境への配慮・デジタル技術の活用

まちづくりGXについて

- ✓ 都市の緑地の確保や森林の整備・保全、都市におけるエネルギーの有効活用などの取組が重要。
- ✓ 都市の緑地への民間資金の導入を図るため、事業者の自発的な取組を客観的に評価できる仕組みの導入やインセンティブ付け等について検討。

都市に関わるデータの取得、デジタル技術の活用について

- ✓ データの利用やデジタル技術の利活用が都市政策において有効。
- ✓ スマートシティの取組強化や都市計画に関するデータのデジタル化・オープンデータ化等の取組が重要。

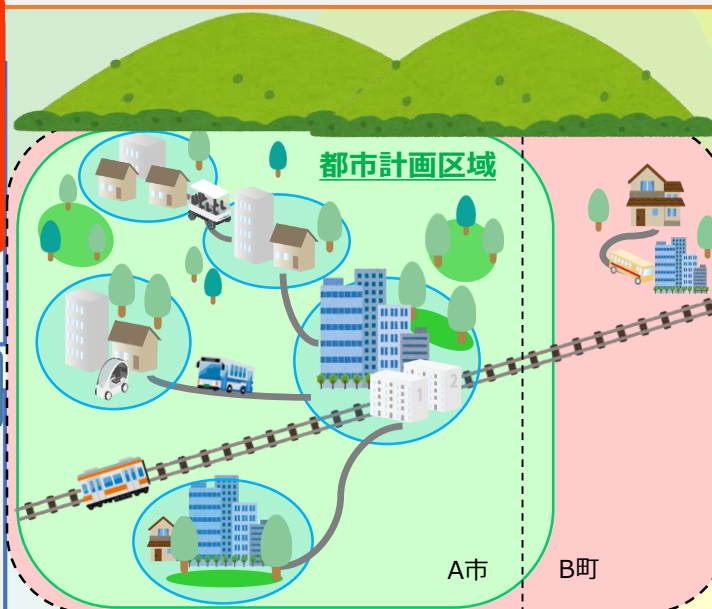
都市構造の検討

多様な暮らし方・働き方に応じた実効性のあるコンパクト・プラス・ネットワークの取組の推進について

- ✓ **日常生活を営む身近なエリア（ネイバーフッド）の魅力向上等を図ることが重要。**
- ✓ **公共交通軸の確保とまちづくりの取組を連携して進めることが重要。**
- ✓ 市街地内の魅力向上の取組に加え、市街地外も含めた市町村域全体に目配りしたメリハリのある土地利用コントロールの導入が重要。

広域・施策横断的な都市計画の取組について

- ✓ 市町村の役割や権限等に配慮しつつ、広域的な観点等から技術的支援を行うなど、都道府県などによる市町村へのサポートが有効。
- ✓ 国土形成計画等と整合を図った広域の視点からの都市構造を目指すことが重要。



身近なエリアの魅力向上

多様な地域における継続的なエリアマネジメントについて

- ✓ エリアマネジメント団体等が事業性を確保できる制度の柔軟化等が必要。
- ✓ 市街地整備事業完了後の施行区域における継続的なエリアマネジメントが維持される取組が必要。

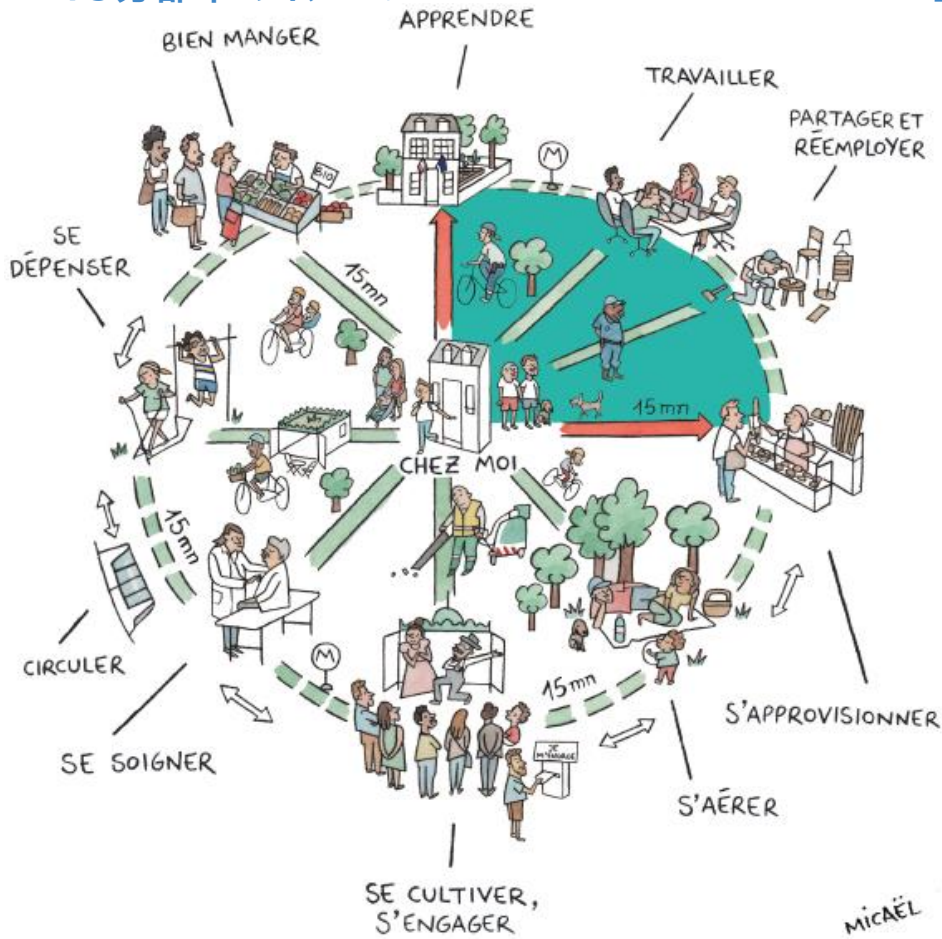
社会の変化に対応した柔軟なまちづくりについて

- ✓ **都市施設の再構築に向けた制度の効果的な活用が有効。**
- ✓ 時間軸を踏まえた立地適正化計画の柔軟な運用等の取組が有効。
- ✓ 市街地整備事業の円滑化に向けた運用改善等への取組が重要。

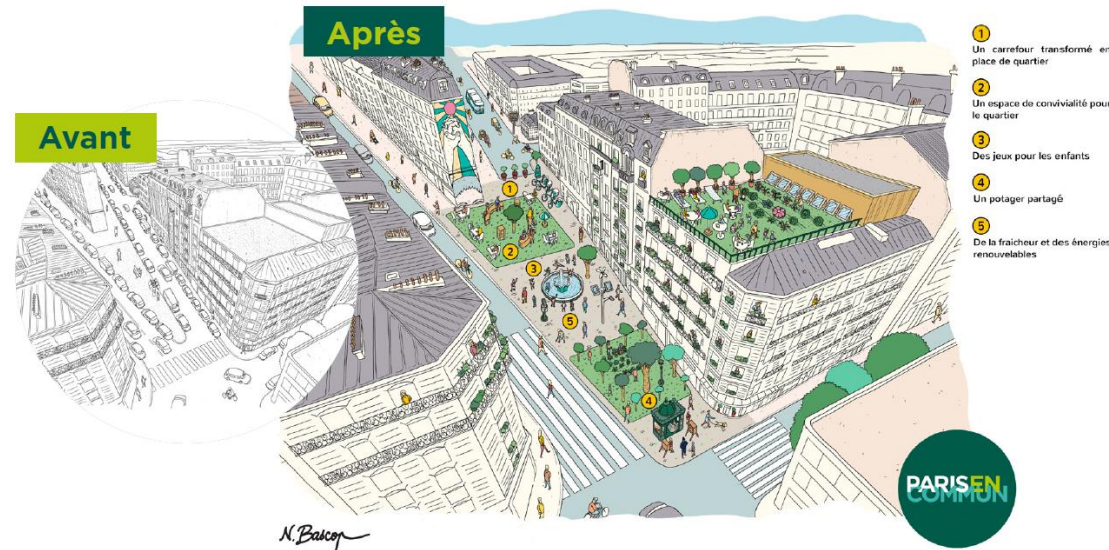
海外事例(パリ)

◆パリでは、自宅から徒歩または自転車で15分以内に、学校、職場、食料品店、医療機関、公園、スポーツ施設等の日常生活におけるあらゆる機能にアクセスできる「15分都市」を目指している

■15分都市のイメージ



■広場区間の活用イメージ



■市民キオスク(あずまや、市民の憩いの拠点) —ポルト・ド・モンマルトル地区



こどもまんなかまちづくりに関する政府の方針

■こども基本法

こども施策を社会全体で総合的かつ強力に推進していくための包括的な基本法として、令和4年6月に成立し、令和5年4月に施行

■こども未来戦略方針(2023.6.13閣議決定)

Ⅱ. こども・子育て政策の強化:3つの基本理念

1. こども子育て政策の課題

(2) 子育てしづらい社会環境や子育てと両立しにくい職場環境がある

こどもや子育て世帯が安心・快適に日常生活を送ることができるようにするため、こどもや子育て世帯の目線に立ち、こどものための近隣地域の生活空間を形成する「こどもまんなかまちづくり」を加速化し、こどもの遊び場の確保や、親同士・地域住民との交流機会を生み出す空間の創出などの取組の更なる拡充を図っていく必要がある。

Ⅲ. 「加速化プラン」～今後3年間の集中的な取組～

Ⅲ-1. 「加速化プラン」において実施する具体的な施策

1. ライフステージを通じた子育てに係る経済的支援の強化や若い世代の所得向上に向けた取組

(7) 子育て世帯に対する住宅支援の強化 ～子育てにやさしい住まいの拡充～

こどもや子育て世帯の目線に立った「こどもまんなかまちづくり」を加速化させる。その中で、理想のこども数を持たない理由の一つとして若い世代を中心に「家が狭いから」が挙げられており、また、子育て支援の現場からも子育て世代の居住環境の改善を求める声があることから、子育てにやさしい住まいの拡充を目指し、住宅支援を強化する。

■経済財政運営と改革の基本方針(2023.6.16閣議決定)

3. 少子化対策・こども政策の抜本強化

(こども大綱の取りまとめ)

子育てしやすい地方への移住や子育てを住まいと周辺環境の観点から応援する「こどもまんなかまちづくり」を推進するとともに、移動しやすい環境整備など公共交通・観光、公共インフラ等の面での気運醸成を強力に進める。

G7都市大臣コミュニケ

全体

- 温室効果ガスのネットゼロ、かつレジリエントな都市を作るため、**グリーンな社会を目指した移行が重要**
- 移行に伴う痛みやコストが脆弱な立場にある人々に不公正に偏らないよう、**インクルーシブな都市を目指すことが必要**
- 移行を円滑に進め、人間中心のまちづくりを実現するため**デジタル技術の活用が有効**
- 移行のために、官民双方の**都市への投資の重要性を強調** ● 協働のためには、**国の役割が重要** 等

ネットゼロ、レジリエンス

- ネットゼロの実現等に向け、**都市の緑地の確保が重要**。そのため、**緑地の確保に民間投資が向けられるよう市場環境の整備が重要**
- 都市政策と交通政策を組み合わせた**都市構造の再編**や**ウォークアブルな空間の創出が重要**
- 都市における**エネルギー利用の効率化**や**再生可能エネルギーの導入の促進**
- **事前防災の推進**等によるレジリエンス強化 等

インクルーシブ

- **女性や高齢者等を含む、誰もが暮らしやすく、アクセスしやすい都市の形成が重要**
- **多様性のある地域コミュニティの形成を推進**
- 地方都市・大都市が**包括的に成長することの重要性を確認**
- 優良事例の共有等により、**自治体の政策形成を支援** 等

デジタル

- **データの収集更新・標準化・オープン化の重要性を確認**
- デジタル技術の有用性を示すため、**ユースケース開発の重要性を確認**
- 誰もがデジタル化の恩恵を受けられるよう、特に中小自治体の**人材育成を推進**
- G7以外の**国際社会への知見の共有** 等

ウクライナ

- **G7広島首脳コミュニケ**におけるウクライナに関する部分の**再確認** ● 重要な**インフラの修復、復旧・復興**を支援するための**共同努力の継続** 等

香川・高松原則

共同声明の実現のため、多様な主体との協働のあり方をまとめた「**香川・高松原則**」を公表。

① 地方公共団体との協働：

地方公共団体の取組を促進し、支援することによる政策ツールの深化

② 市民社会や民間との協働：

技術革新や投資等での民間の参画を促す環境整備

③ G7以外を含む国際社会との協働：

国際協力の強化や、新興国・途上国等への知見の共有

II. ネット・ゼロでレジリエントな都市

17. 交通、モビリティ、ウォークアビリティ:

我々は、徒歩、自転車、アクセスしやすく、バリアフリーな公共交通機関など、より効果的で持続可能な交通手段を提供することの重要性を強調する。

(中略)

すべての人々にとって魅力的で、アクセスしやすく、健康的な都市を実現するためには、安全で快適なウォークブル空間の総合的な設計、開発、管理を強化し、人力による移動を奨励すべきであることを強調する。これは、交通サービスやインフラを所有、管理、運営し、公共空間や交通サービスを改善したいと思う、官民の連携によって実現できる。

- 都市像、ニーズの変化
 - 既存のストックや計画が非効率に
- 多様性が生み出す都市の活力
 - 用途、活動、機能が混在する環境の創造
- これまでの「計画的開発」へのアンチテーゼ
 - ヒューマンスケールのまちへの希求



都市インフラのリノベーション

- ・インフラストックの柔軟な利活用
- ・働き方、価値観の変化に対応した人間のための空間に

ストリートが持つ2つの機能～リンク&プレイス



リンク=交通

移動するための
「導管」としての
ストリート

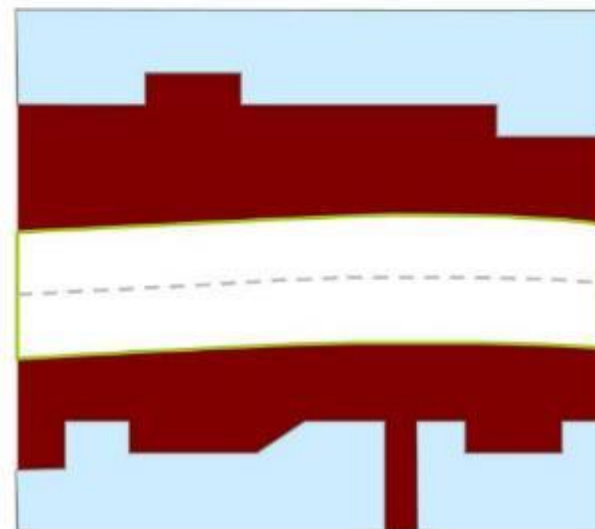
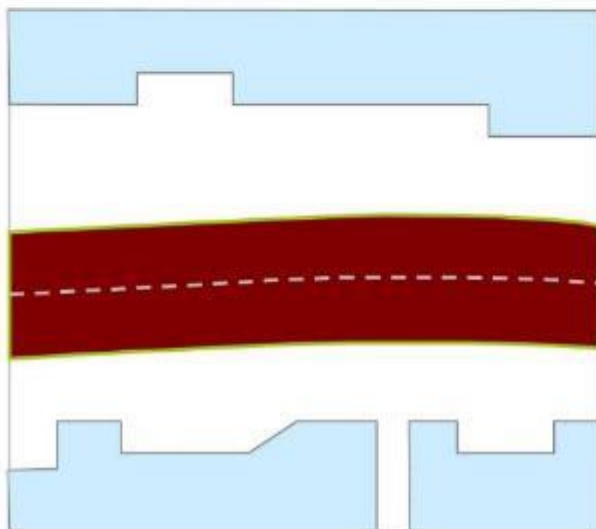
設計目的:
時間を短縮



プレイス=空間

それ自身が
「目的地」となる
ストリート

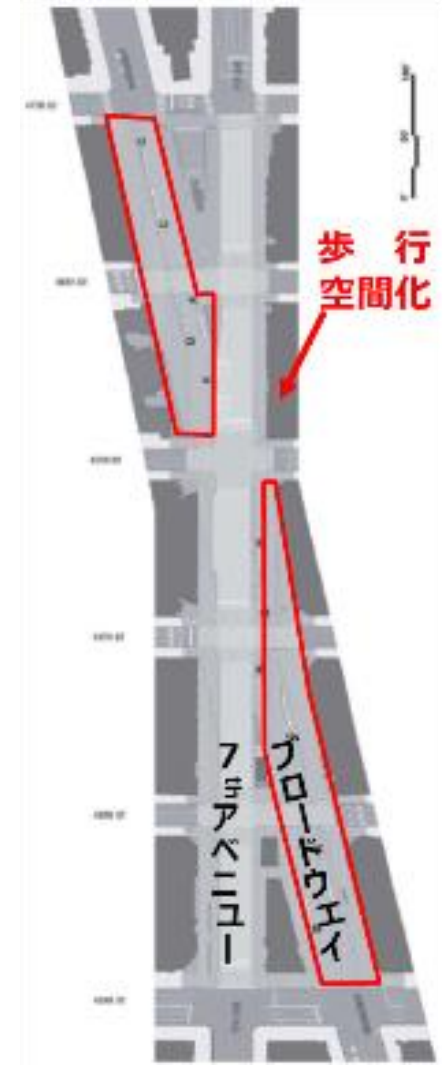
設計目的:
時間を過ごす



海外事例（ニューヨーク・タイムズスクエア）

- 半年間にわたる社会実験を経て、2010年以降、ブロードウェイは恒久的に広場化。
- タイムズ・スクエアの歩行者数は11%増加。また、74%の市民がタイムズ・スクエアは劇的に改善されたと回答。

〔整備前（2009年）〕



〔整備後（2015年）〕



海外事例（ポートランド）

- アメリカのポートランドでは、建物の1階部分（グランドレベル）のうち歩道に面する壁面を透明にする規制が設けられている。リノベーションでは壁面の4割、新規開発では5割を透明としなければならない。
- 道路にも、まちの賑わいを創出するためのデザインを導入。



PEARL DISTRICT/パール地区に見る演出 14

クルマ中心からヒト中心の空間形成
沿道と路上を一体的に活用
地域の多様な主体の活躍

人々が集い・憩い・多様な活動を
繰り広げられる場へ

Walkable

歩きたくなる

Eye level

まちに開かれた1階

Diversity

多様な人の多様な用途、使い方

Open

開かれた空間が心地よい

居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたいくなる、歩きたくなる。

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。

歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たいくなる、留まりたいくなる。

1階
(店舗やオフィス等)

1階
(店舗やオフィス等)

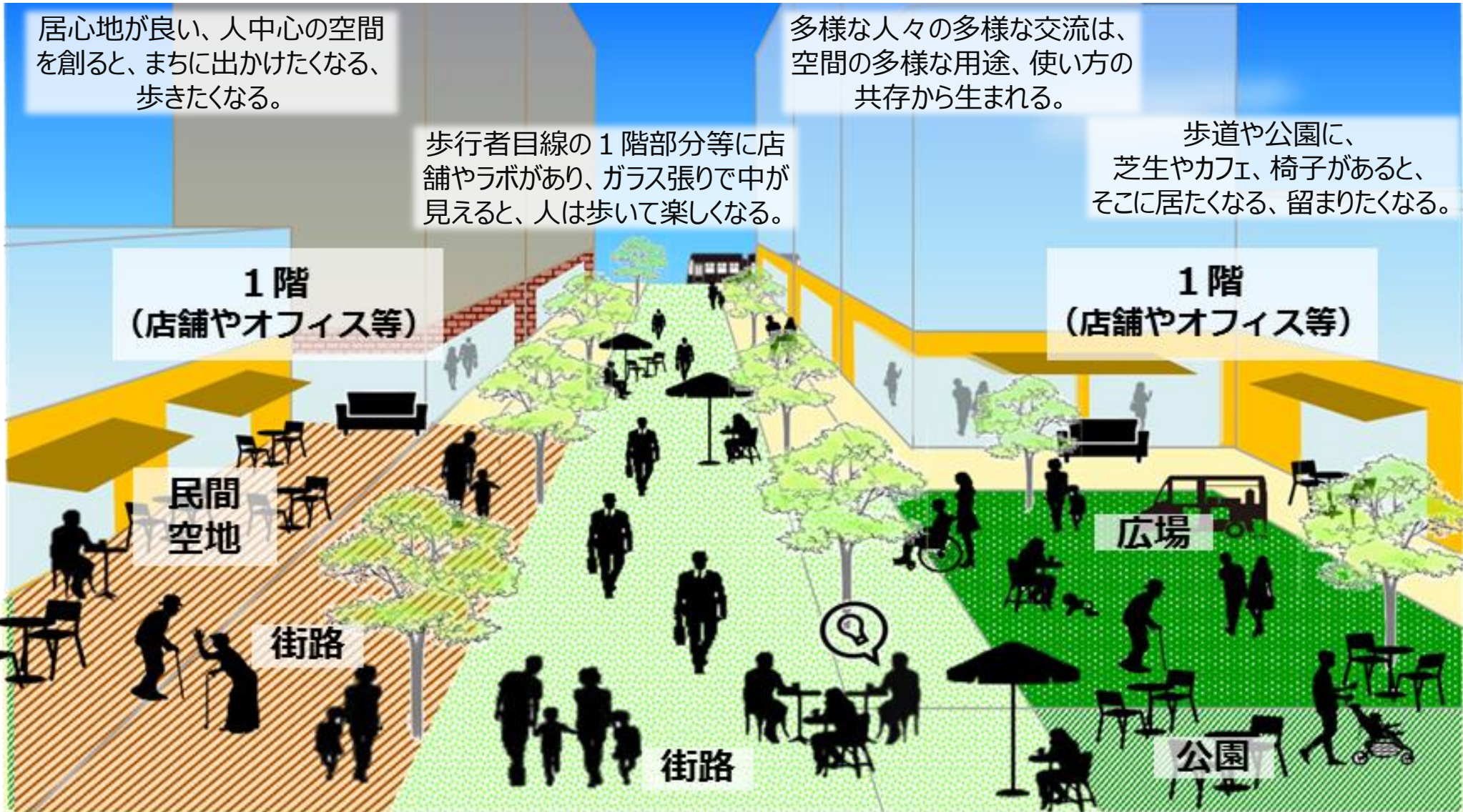
民間
空地

街路

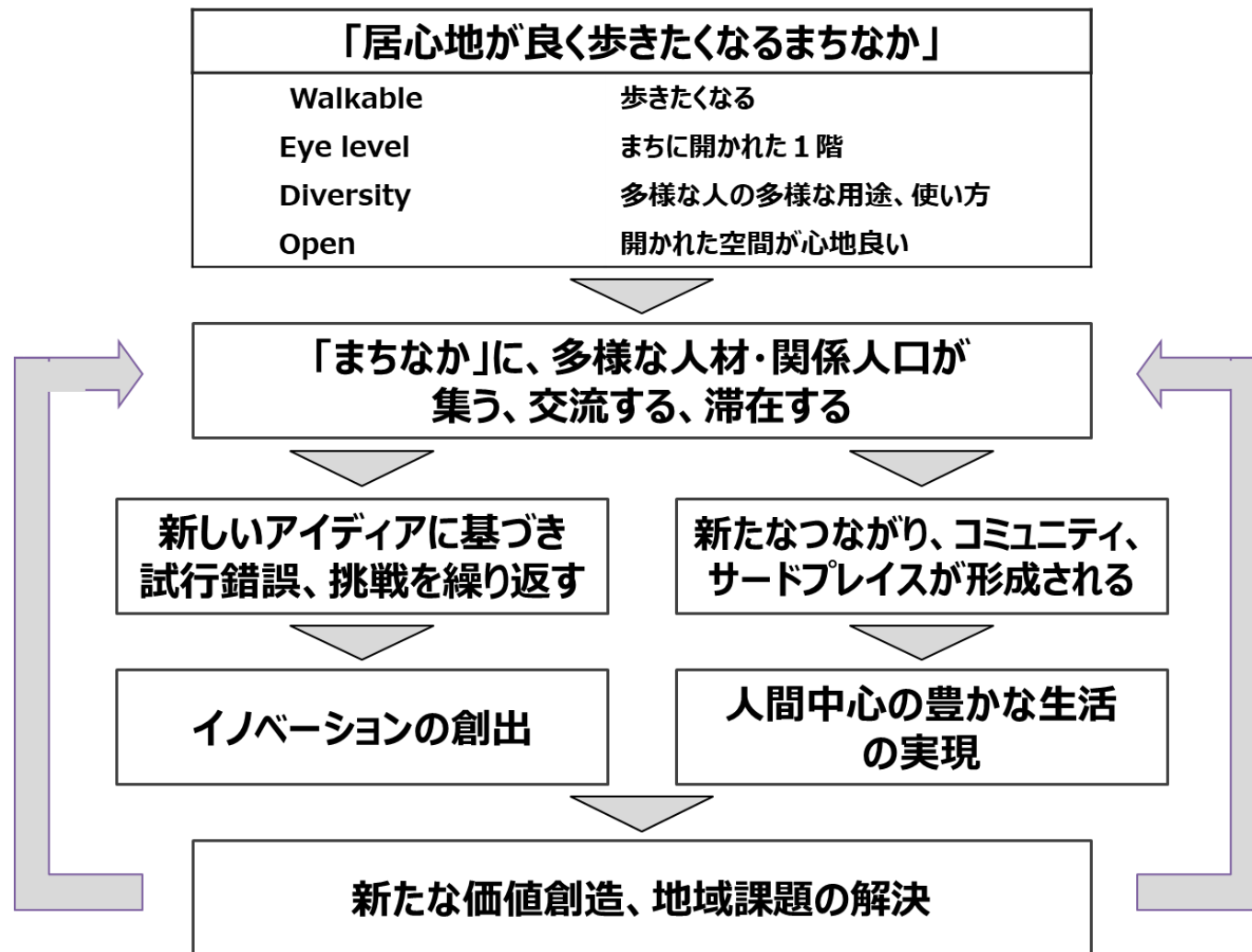
街路

広場

公園



- 都市の力を最大限引き出すためには、拡散した市街地を集約するとともに、その核となる「**まちなか**」のゆとりとにぎわいを取り戻すことが重要
- 「コンパクト・プラス・ネットワーク」の核となる官民のストックが集積する「まちなか」を、官民連携の取組により、**人間中心の空間（ウォーカブルな空間）に改変**



滞在快適性等向上区域（ウォーカブル区域）

- 「滞在快適性等向上区域」は、都市再生整備計画の中で市町村が指定する区域（通称「ウォーカブル区域」）。
- 令和2年の法改正で、まちなかにおける「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりを促進するため、歩道を拡幅、都市公園に交流の拠点を整備、建物低層部をガラス張り化するなど、その区域の快適性・魅力向上を図るための整備などを重点的に行う必要がある区域として新設。
- 区域内では、観光客やオフィスワーカー、高齢者や障害者の方々、若者や子育て世代など、まちに住み、又は訪れる様々な人々が満足できるような「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりを目指す。

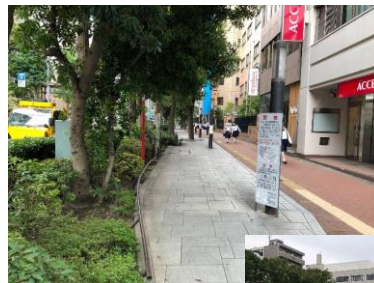


歩きたくなる空間の創出

■ 街路等の広場化



■ 道路・公園・広場の整備、改修・改変



■ 街路等の芝生化・高質化

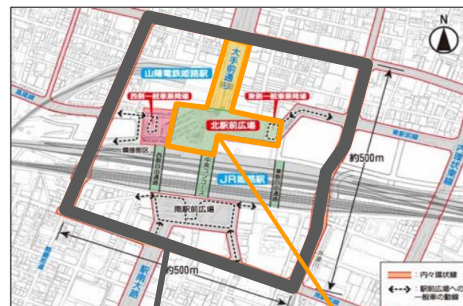


■ 駐車場出入口付替



ウォーカブル区域側の駐車場出入口を閉鎖

■ 外周道路等の整備



環状道路の整備による通過交通の分散



■ 外観修景



歩行者目線の1階をまちに開放

■ グラウンドレベル修復整備



建物1階部分を透明化し、
まちとの一体感を提供

■ 既存建造物リノベーション



空き店舗を改修し、
開かれた1階部分に地域拠点を形成

既存ストックの多様な主体による多様な利活用

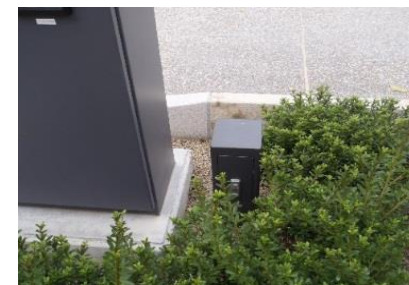
■ 街路空間の利活用



■ 公共空間利活用施設整備



給排水
設備



電源
設備

開かれた空間の滞在環境の向上

■ 滞在快適性向上施設



ストリートファニチャーの設置

■ 社会実験・コーディネート・運営支援



パークレット社会実験



合意形成に向けたコーディネート

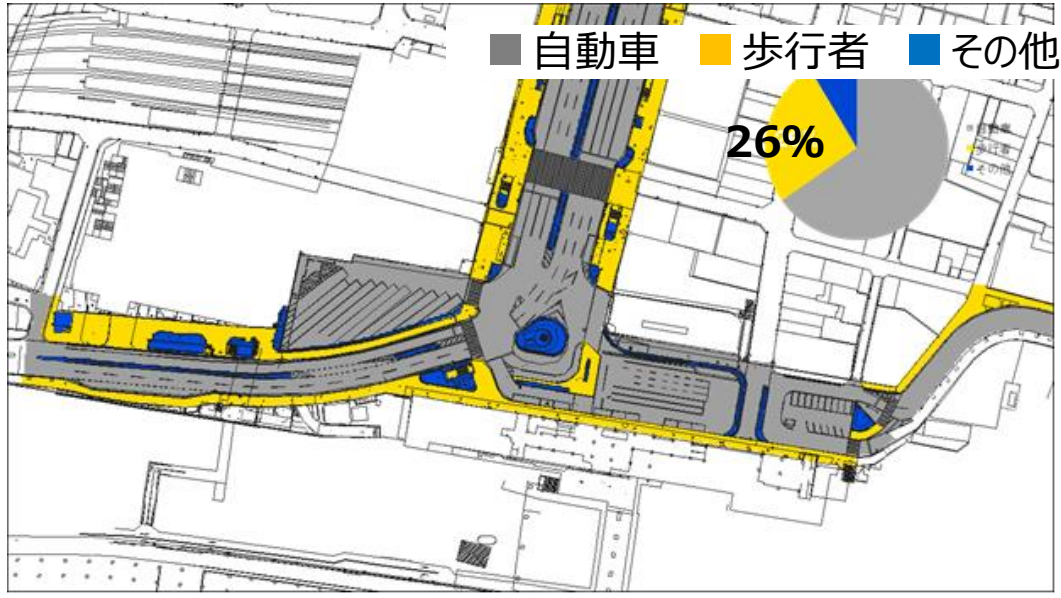
国内の潮流—姫路駅北駅前広場



(出典) 姫路市提供資料

国内の潮流－姫路駅北駅前広場

整備前

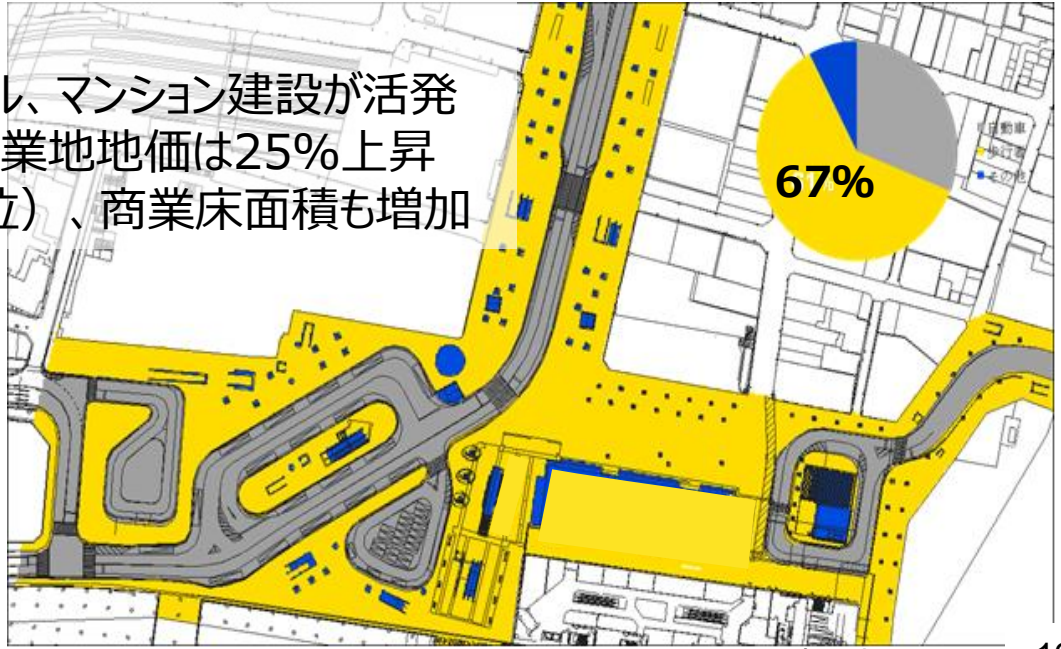


整備後



取組効果

- ・周辺におけるホテル、マンション建設が活発化し、駅周辺の商業地地価は25%上昇（H31：全国7位）、商業床面積も増加



国内の潮流－大阪市御堂筋

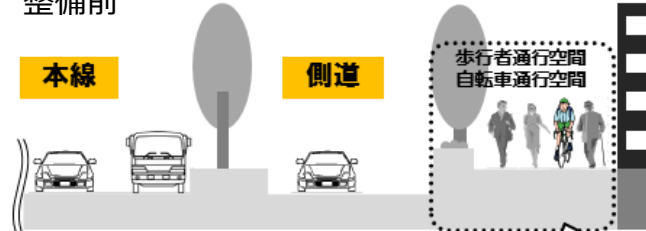
【位置図】



整備前

本線

側道



歩行者通行空間
自転車通行空間

整備後

本線



自転車
通行空間
歩行者通行空間

歩行空間の拡大

整備前



整備後



① 現況



国内の潮流－大阪市御堂筋

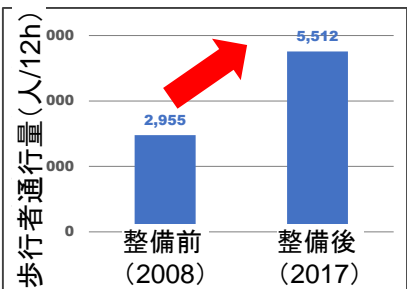
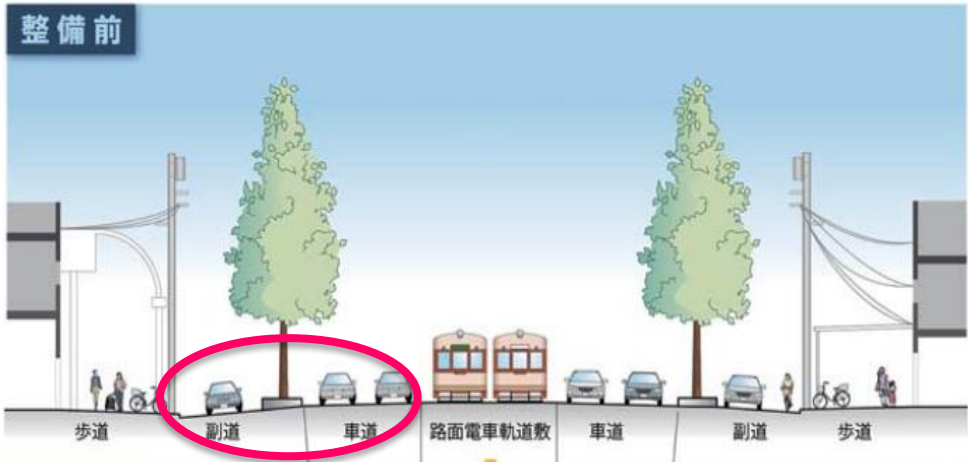
フルモール化に向け、御堂筋完成100周年(2037年)をターゲットイヤーとして設定



国内の潮流－松山市 花園町通り



国内の潮流 - 松山市 花園町通り



取組効果

- ・歩行者通行量が約2倍増。
- ・地価も下げ止まり、0.8%上昇

駅前空間 × ウォーカブル



なんば駅前(大阪市)

水辺空間 × ウォーカブル



北上川・中津川(岩手県盛岡市)

商店街 × ウォーカブル



写真提供：一般社団法人柏アーバンデザインセンター（UDC2）

柏駅前通り商店街（千葉県柏市）

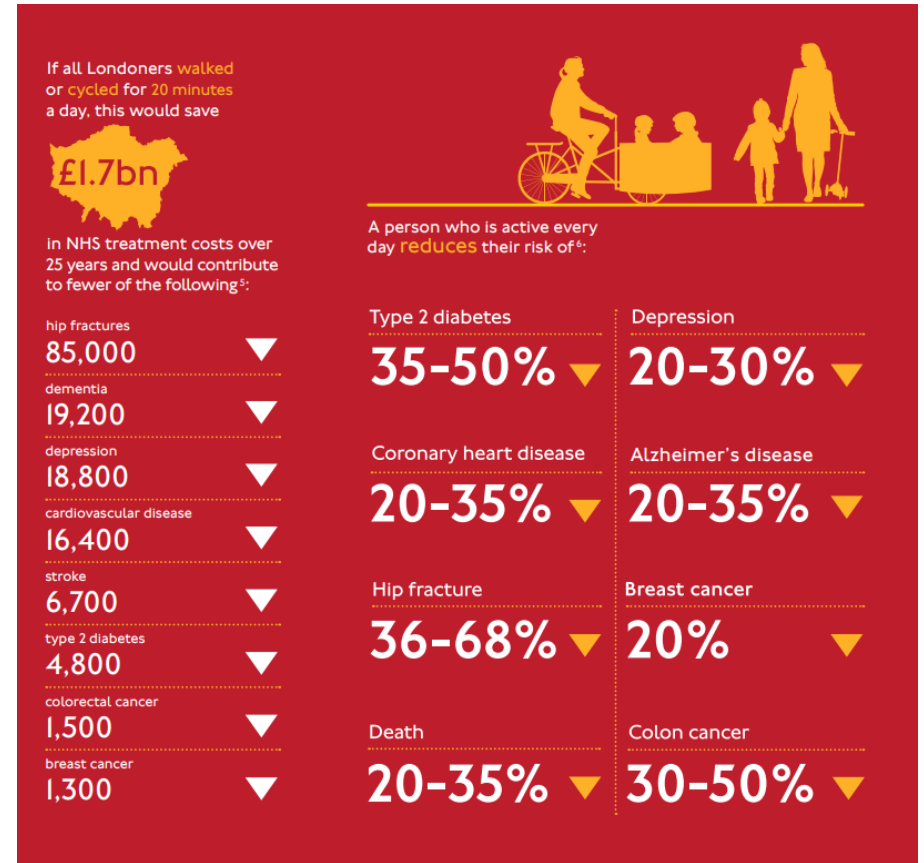
健康 × ウォーカブル

- ◆ Healthy Streets Approachは、ロンドン市民が車の使用を減らし、徒歩、自転車、公共交通機関の使用を増やす試み
- ◆ “Healthy”の語のとおり、このアプローチはロンドン市民の健康増進を主目的としているが、以下のような副次効果も期待
 - 人々が交流できる公共スペースの創出
 - 大気汚染と騒音公害を低減
 - 地域の経済的利益の創出 …etc



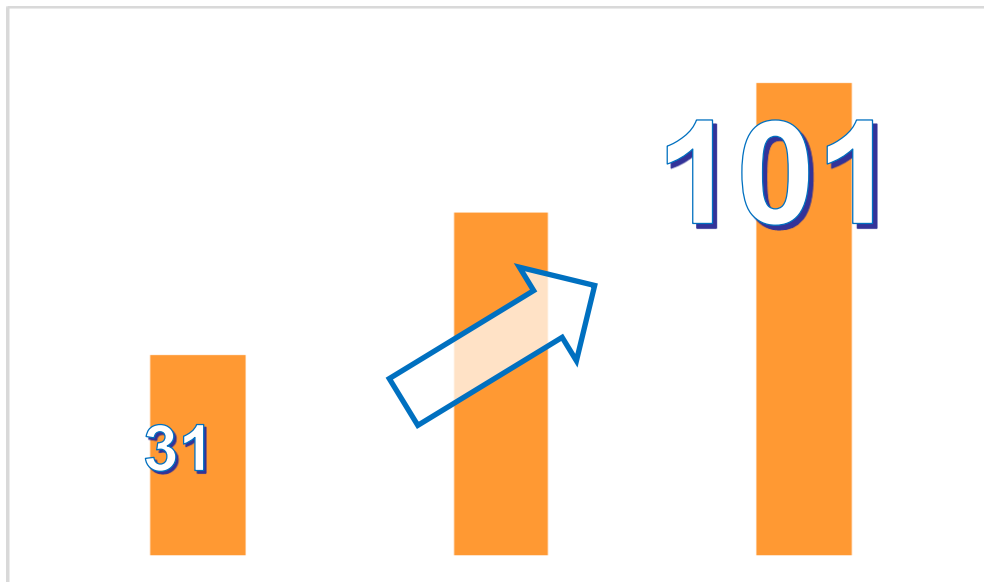
出典：ロンドン市交通局(TfL) “Small Change, Big Impact(2017.11)”

■ 歩くことでの健康増進効果(費用削減、リスクの低下)を定量的に表示

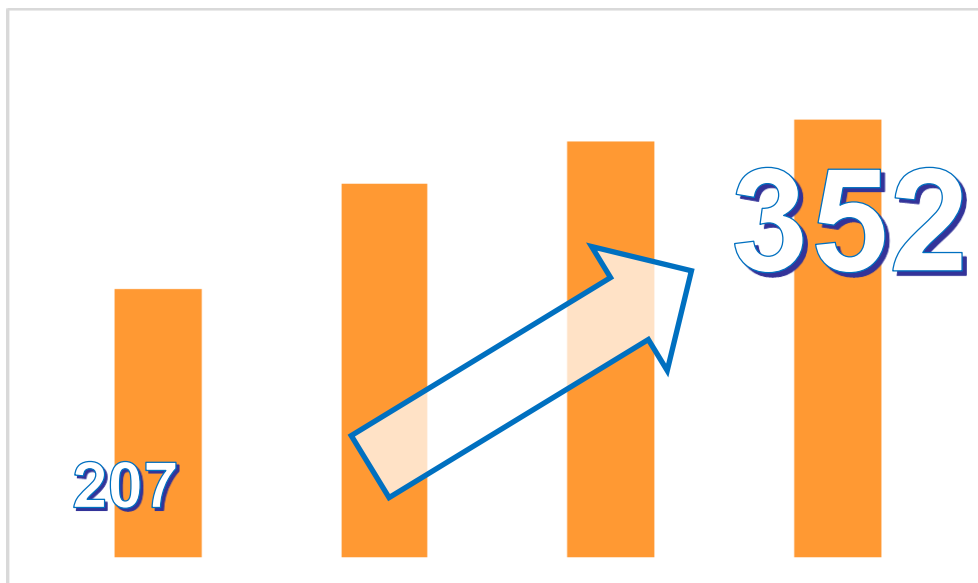


出典：ロンドン市交通局(TfL) “Healthy Streets,” Healthy Streets for London”

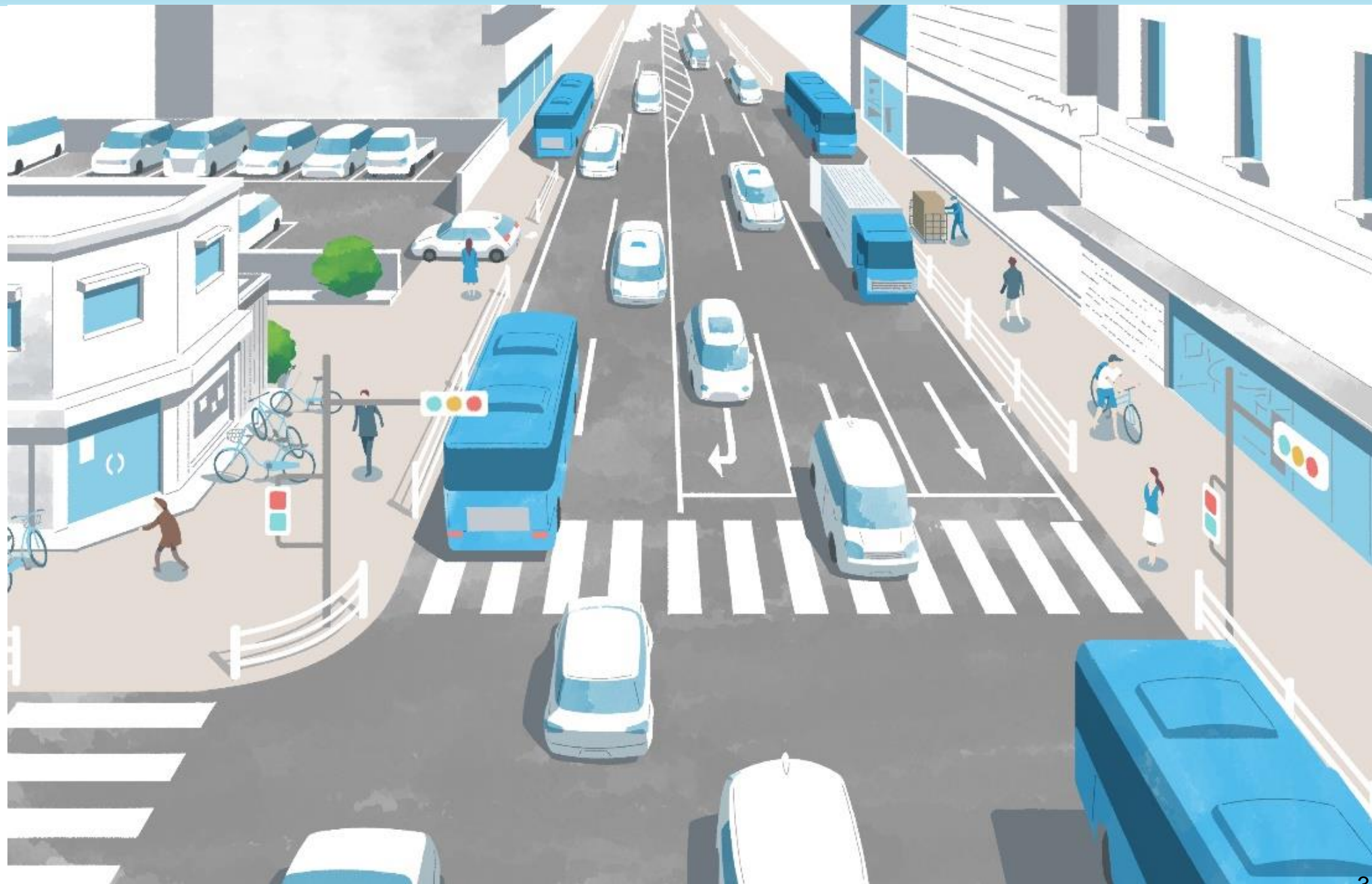
ウォーカブル区域を設定した自治体数

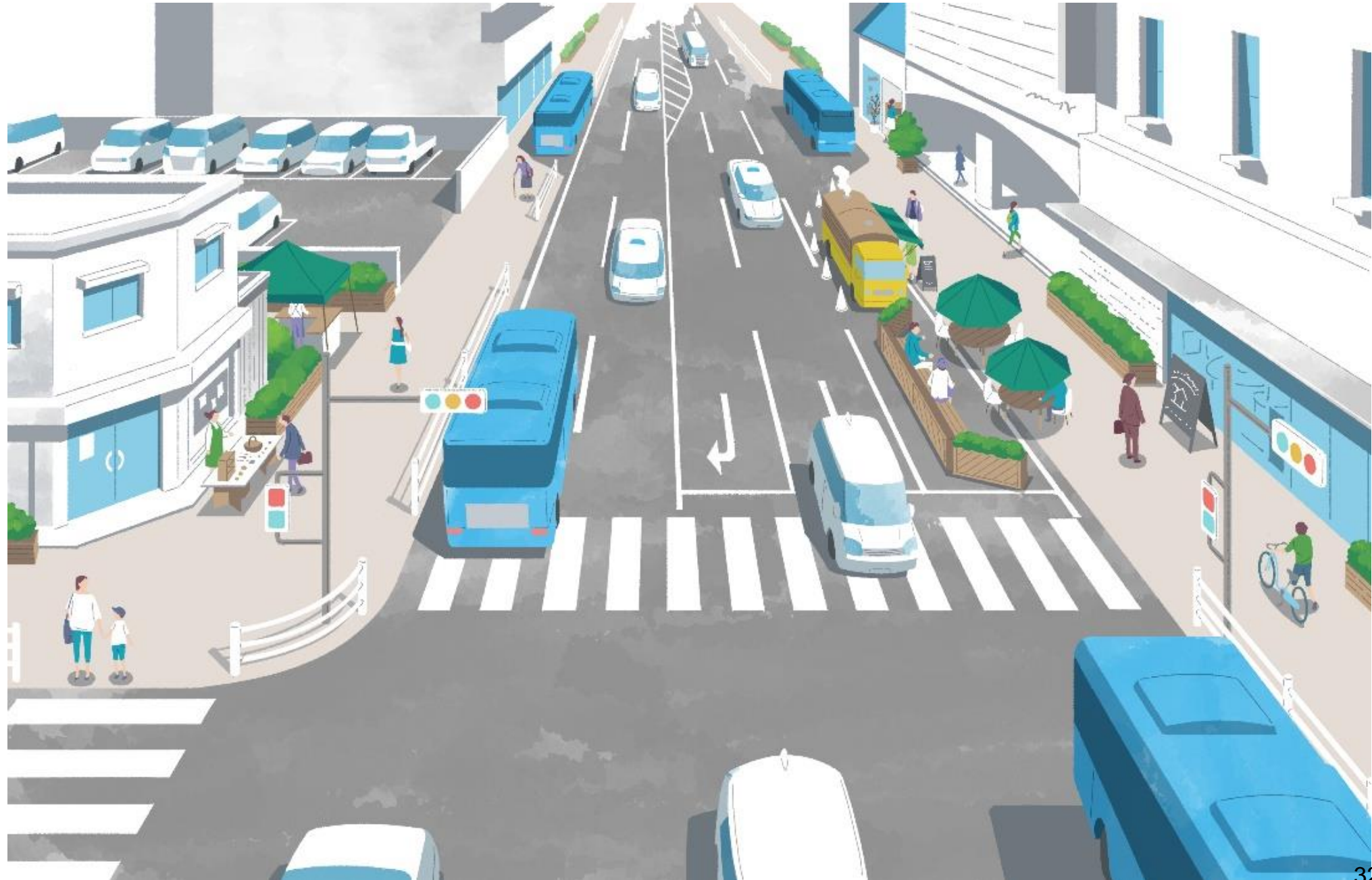


ウォーカブル推進都市の数



ウォーカブルポータルサイトトップページ～まちの変遷イメージ①～





ウォーカブルポータルサイトトップページ～まちの変遷イメージ③～



ウォーカブルポータルサイトトップページ～まちの変遷イメージ④～



ウォーカブルなまちなかづくり

自分自身が行きたくなるまち

大切な人におススメしたくなるまち

～ヒト中心のまちなかづくり～